

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504054		
法人名	社会福祉法人 ノテ福祉会		
事業所名	グループホームごきげん清田 1階 なでしこ		
所在地	札幌市清田区清田1条4丁目3-16		
自己評価作成日	平成26年3月17日	評価結果市町村受理日	平成26年5月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0170504054-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成26年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人共通理念である「誰もが ぐくふつうに くらせる しあわせ」を創造する。そして、当グループホームの独自理念「絆～安心できる暮らしを目指して」を全職員が意識しながら日頃の勤務に従事しています。法人内・外で行う様々な研修に職員を派遣し、または積極的に参加してもらって個々のスキルアップを図ると共に、認知症の入居者皆様と生活を共にするという気持ちをもって関わっています。そのほか地域密着型の利点を活かし、隣の小学校児童の皆様との交流、町内会のお祭りへの参加、区の文化ホールでのイベントなどへの参加を行い、地域との繋がりを大事にしています。運営推進会議においては、地域包括支援センターはじめ様々な機関の皆様からのご支援、アドバイスを頂き、同時にご家族様の継続的な参加により、ホームにおいての入居者の報告や行事のお誘いなどもできています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清田小学校の隣に位置し、夏には居間から屋内プールで泳ぎ遊ぶ児童の姿が身近に見える。6年生が総合学習で訪れ、認知症について学んだ後、利用者とゲームや折り紙を一緒に楽しんで交流し、居間には児童から寄せられた感謝の手紙が多数貼られている。町内会に加入し、草刈、地域の祭りに参加し、小学校の学芸会などに招かれ、事業所のイベントには地域住民が訪れ相互に交流している。暖かい日は毎日のように道端に咲く八重桜やラベンダーで季節を感じながら散歩を楽しんでいる。原因究明を容易にするため、ヒヤリハット事例を利用者別にまとめる等の工夫を積み重ね、冬期間はすべての来所者に一分間手洗いやマスクをしてもらい、職員は吐瀉物処理の訓練を怠らず、加湿と換気によって室内を適切な湿度に保ちながら利用者が安全に暮らしていけるよう配慮している。また、理解のある医療機関の協力、家族との連携により積極的に看取りに取りくんでいる。事業所理念「利用者から、家族から、地域住民から信頼されるグループホーム」となるために常に向上心を忘れず努力を続けている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念「豊かな価値観を大切に」「地域とふれあい」「信頼されるホームに」を全職員が意識・理解して、地域の住民と接し、利用者の個性を大切にしながら向上心を忘れずに努力している。	法人理念に加えて、地域密着型を意識した事業所独自の理念を作成して、理念が日々のケア、家族との接触、地域住民との触れ合いに活かせるように努めている。	職員は自分の仕事だけをこなすのではなく、「管理者の視点」を持って事業所全体としての介護のあり方を考え実践する意識をもちながら、全員で事業所理念の実現に近づくよう努めることを期待する。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して夏祭りや草刈りなどの町内会行事に積極的に参加している。ごみを拾いながら散歩をするように心がけている。小学生がら来所して認知症について学んだり、お話をしたりして利用者とは交流している。	清田ふれあい区民祭りなどに積極的に参加して「キッズダンス」見学やアイスクリームを楽しんでいる。運動会・学会など小学校の行事に招かれ、事業所のイベントには住民が訪れるなど相互交流を重ねながら地域の一員になれるように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者と職員が、散歩の際にごみ収集や清掃を行う運動を昨年からは取り組んでいる。総合学習で施設を訪れ学習しながら利用者とは交流する5回・70人の小学生を受け入れている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の様子や取り組みをご家族に報告するとともに要望や意見を取り入れてサービス向上につなげている。他、地域包括支援センターよりアドバイスや助言をもらったり、他の情報を得られるよう努めている。	今年度は年5回、家族・地域住民・民生委員・地域包括支援センター職員が参加して、事業所からの報告、情報収集・質疑応答をしている。避難訓練の直後に消防署・消防団を交えて開催し、講評をもらいながら意見交換をするなどの工夫をして、活発な意見を促している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に行われる清田区ケア連絡会で、他の事業所の活動の様子を伺い、自事業所への助言、アドバイスを頂くよう努めている。	必要があるごとに担当課に電話や面談で日ごろから接触している。清田区担当課や他のグループホームと連携して、行方不明になった地域の老人を捜索する「SOS高齢者徘徊模擬訓練」を実施した。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議にて研修会を行い、「身体拘束廃止マニュアル」を利用しながら、身体拘束ゼロを心がけている。言葉による抑制を解消するため、どのような言葉掛けが適正かを職員同士で工夫・研究している。	身体拘束だけでなく、言葉による拘束の弊害も十分に理解し、台所に入りたがる利用者を「危ないからダメ」と制止するのではなく、家事で役に立ちたいとの利用者の気持ちを汲み取りながら、安全な家事の場を設けるなどの方法で、利用者の自由を最大限尊重している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を定期的に行い、身体的だけではなく、精神的・性的・金銭的虐待防止に関しても職員全体が理解し意識できるようケアに努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会にて学び、職員は入居者の尊厳を守るケアであるよう日々意識している。成年後見制度の重要性を理解して、必要になる日に備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は主に管理者が行い、利用者や家族の疑問や不安を理解しながら、十分な説明のもとに不安を解消するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へのアンケートをはじめ、日頃の面会時に家族の要望や意見を積極的に聴き取るようにしている。	「ごきげん清田だより」に利用者の事業所での生活の様子を手書きで知らせて情報を提供し、法人が行う年一回の家族アンケートや来訪時の会話・電話での連絡において家族の意見や要望を聞き取り改善につなげている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議の他、年1回の法人全体の経営方針説明会など、職員の意見を反映させる機会をもっている。	管理者は日常的に職員と会話の機会を持ち、意見や提案を聞き取っている。出てきた意見は肯定的にとらえて、ユニット会議などで職員間で話し合い実施改善につなげている。年2回の人事考課の際の個人面談で職員の様々な意見・希望をくみ取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課にて給与、賞与に反映、他毎月のシフト作成には全員の希望を取り上げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修からはじめ、3か月、9か月のフォローアップ研修、認知症実践者研修、インストラクター養成研修、毎月数回の法人内教育研修がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	清田区ケア連絡会、管理者会、他、外部研修に積極的に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期プラン作成時から入念なアセスメントを行い、その方々に合った生活を提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記に並び、アセスメントの段階からご家族にも要望や不安をお聞きし、安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方にあつたプランの作成にて、全職員が統一したケアを行えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃より、できる事はしてもらう事も考え、自立支援を心掛けている。食器拭きや簡単な掃除など。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に本人の様子を伝えて、面会が負担ではないか、なにかお手伝いして頂けることはないか話し合う機会をもっている。職員は上手にスキンシップがとれる家族の接し方を参考にし、日々の介護に役立てている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの際に昔利用した百貨店を見てもらったり、馴染みの理美容やマッサージの利用を継続する、又知人からの電話があれば、家族の許可を得ながら、関係が保てるように取り次いだり支援したりして馴染みの関係を継続を支援している。	高齢化により馴染みの場所への訪問や人との面談の機会は少なくなっているが、散歩や入浴の機会を利用してむかしの懐かしい話をしてもらい、懐かしい感情や生き活きた自分を思い出してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事の他、日常の生活でも、協力しあひ馴染みの関係になって頂けるよう支援する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても、困ったときには相談に乗ることを知らせている。入院した利用者にはお見舞いなど欠かさず行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランによる「主訴」を大事にとらえ、本人が希望する暮らしに少しでも添えるよう配慮している。	見守り時の気づき、散歩や入浴の会話から思いや意向を把握して、職員で話し合い実現に努めている。例えばドライブで、懐かしい場所である時計台やデパートを見に行くことに繋げた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報の調査から、アセスメントにおいて出来るだけ細かい情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃からの観察ふくめ、できることはして頂くよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のケアカンファレンスや日常の介護記録からモニタリングを行い、プランの更新に役立てている。	利用者・家族の意向を聞き取り、モニタリングを行いながら、ケアマネージャーが全体プランを作成し全体会議で話し合っ作成して。およそ3か月ごとに見直す。状況に変化があればすぐ対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かい記録の記載、誰が読んでもわかる記録を心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や、その帰りの買い物など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、外出や大正琴のボランティアなどの協力がある。さらに運営推進会議や町内会から情報を集めて、地域の社会資源と入居者を結びつけて、いっそう充実したケアを進めていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を希望される方もいるが、本人が馴染みでかかっている医者がいれば、受診して頂くようにしている。	本人・家族の希望する医師を自由に選んでもらっている。従来のかかりつけ医への受診を基本的に職員が同行している。受診の結果は定期的に、状況が変わった場合にはそのつど、家族に伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護師や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週2回の訪問看護師と利用者の様々な情報を共有し、気軽に相談できる関係性構築に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	お見舞いにいき状態の把握に努めて、医療機関と利用者・家族の仲介役に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「マニュアル」を利用して説明し、家族の意向を確認している。終末期と認められる時点で、医師・家族・看護師・職員で、本人・家族が望む最期をどう実現するかを話し合っている。つい最近、利用者一名の看取りを行った。	「重度化指針」を示して、契約時に事業所のできることを説明して、同意を得ている。重度化時には、適切な情報を提供しながらもう一度家族の意思を確認している。医師・看護師・家族との連携・協力のもと、3名の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験者からの話や、日頃の研修も含め、いつだれが関わるかわからないこととして研修を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災避難訓練を実施し、消防からの実地指導や運営指針会議にて指導頂いている。建物が堅牢なことから、地震の際には慌てずホーム内にとまることを職員皆で確認している。	年2回、昼夜間を想定して消防署と消防団が参加して防災避難訓練をしている。地震時には、慌てずに事業所内で安全を確保するとの共通理解が出来ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を大事に、排泄、更衣はもとより会話や言葉かけにも気をつけるよう努めている。	排泄や入浴、ことばかけなど日常の介護において、利用者の人格を尊重し、羞恥心などを感じさせないように職員皆で配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なにを希望されているかを把握できるようにし、それを実現して頂けるよう支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活習慣を尊重し、その人らしい暮らしができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「あなたらしさ」を受け止め、お化粧品や髪染めなど、ももとの習慣や本人の意向を大切にしながら支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好はもちろんのこと、その方々が食べて昔を懐かしめるような料理や、調理も手伝って頂き、食べる楽しみをもっていただきたい。クックチル方式の食事提供だが、月2回程度手作りの日をもってている。	配食サービスが基本。月2回職人が来て生寿司を握る日もあり、煮物や煮びたしなど利用者が好みの物を手作りする日を設けている。流しソーメンや土用の日のような丼など季節感あるも食事も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定や水分量のチェックで栄養状態をいつも観察している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアはもちろんのこと、義歯の様子もこまめに観察し必要であれば早急に歯科受診をして頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレは4箇所設置して、要所に手すりを配置するなど使い易いように配慮している。出来る限りトイレでの自立排泄を維持できるように支援している。	トイレでの自立排泄は尊厳保持に不可欠であると職員は共通理解して、利用者の排泄パターンや習慣を把握して、適切なトイレへの誘導と排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り下剤に頼らず水分摂取や運動で自然排便を促しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3回、ゆっくり入浴できる環境づくりに努めている。複数介助・同性介助など必要に応じて柔軟に対応している。また浴槽を中央に配置して、両サイドから入浴介助できる作りになっている。	体調に気を付けながら、週2・3回の入浴を支援している。むかしの話を聞き、懐かしい歌と一緒に歌いながら、楽しい入浴になるように努めている。入浴剤を利用して季節感を醸し出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれのその日の体調に合わせて、休息時間を配慮し、記録にも残すようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の無いよう何重にもチェックをし、的確に服薬できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や四季折々の外出行事を企画し気分転換をはかったり、個々の趣味や思い出を大事にしている。食事準備を協力、居間入口の畳の間で洗濯物を丁寧に畳むなど、その力に応じて活躍の場をもってている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やお買い物など、行事とはまた違う簡単な外出を行い気分転換につとめている。	夏場は毎日のように散歩や買い物で道に咲いている季節の花々を楽しみ、庭での野菜作りを見ながら日向ぼっこをしている。車に乗って滝野すずらん公園などの遠出をして季節を感じている。外出の機会を多く設けてストレス発散と生活の活性化に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い等預かり金は施設にて保管しているが、小さな買い物や臨時の買い物に対応できるよう準備している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話があった際はご本人にも会話してもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒にクリスマスや正月の飾り付けをして、季節感が感じられる場になっている。排泄後の異臭がないように気を付け、床の細かなゴミや汚れも環境整備の一環として毎日職員が掃除などしている。	小学児童が活動する姿を見ることができる明るい居間には、壁に利用者の短歌の作品や小学生の感謝の手紙が貼られている。また、クリスマスやひな祭りなどの置物やポスターが季節感を醸し出している。職員は、清潔さや湿度管理に配慮して、居心地の良い空間になるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が今この時間にどこで何をしているかの把握を行いながら職員が間に入りコミュニケーションのお手伝いを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に使っていたものをそのままお持ちになってもらい、できるだけ生活が変わらないよう支援しています。	自宅との違和感を感じないように、入居時には家族と打ち合わせをして、配置を考えたり、馴染みのものを持ち込んでもらっている。仏壇や家族の写真・趣味の作品などそれぞれ個性的な物が居室に置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリも行えるよう歩行に障害がないように整理整頓されたフロアにしている。		